

コンテナ苗木生産研修会の実施

コンテナ苗木は、造林用種苗を培地付き苗として施設栽培したもので、一般の苗畑栽培した苗木と比べて、高価ですが、夏の高温時でも植栽できるなどの工夫で扱いやすいメリットがあるため、近年造林用種苗として注目されています。

9 月 28 日、緑化センターにおいて、府内の種苗生産業者を対象に「コンテナ苗木生産研修会」が開催されました。

研修会では、緑化センター職員がコンテナ苗木生産の取組状況や、本年 9 月に整備した生産施設の概要を説明し、参加者にコンテナの実物を使った播種と移植の体験、栽培苗の根系の発達を観察してもらいました。

参加者からは、単価や、資材の価格などについての質問もあり、コンテナ苗木生産を検討している生産者もみられました。

今後は、11 月に他府県の生産地への視察も計画されており、必要に応じて技術指導等を行うこととします。



研修室での講義



コンテナ苗木生産施設の見学



コンテナ苗木の植付け体験